

■ 構成メンバー

代表：田中 和博（京都府立大学 生命環境科学研究科）
副代表：柴田 昌三（京都大学大学院地球環境学学堂／農学研究科）
高谷 淳（京都宝の森をつくる会）
監事：鎌田 磨人（一般社団法人日本生態学会／徳島大学大学院理工学研究部）
事務局：長島 啓子（京都府立大学 生命環境科学研究科）
丹羽 英之（京都学園大学 バイオ環境学部）

<団体> ●京都市 ●京都宝の森をつくる会 ●(公財)京都市都市緑化協会
●(公財)松ヶ崎立正会 ●深泥池水生生物研究会

<個人> ●鎌田 磨人(一般社団法人日本生態学会／徳島大学大学院理工学研究部)、
●齊藤 準(京都工芸繊維大学 応用生物学系) ●柴田 昌三(京都大学
大学院地球環境学学堂／農学研究科) ●高柳 敦(京都大学 農学研究科)
●竹門 康弘(京都大学 防災研究所／深泥池水生生物研究会)
●田中 和博(京都府立大学 生命環境科学研究科) ●長島 啓子(京
都府立大学 生命環境科学研究科) ●森本 幸裕(京都学園大学 バ
イオ環境学部) / (公財)京都市都市緑化協会 (50音順)

※協議会へは協議会員の推薦かつ会議の過半数の賛成を経て参加できます。

■ 発足までの流れ

- 2015年3月22日『宝が池シンポジウム 2015
いのちにぎわう宝が池公園を未来へ～みんなでと
りくもう、楽しい森づくり～』を開催。課題解決
のために市民・行政・研究者が連携していくため
の協議を行う場を形成することの必要性が確認、
共有された。
- 2015年5月21日 有志より『「宝が池の森」保
全再生協議会』準備会の開催を声掛け。
- 2015年7月2日『「宝が池の森」保全再生協議会』
第2回準備会を開催。会の名称等が決定。
- 2015年10月2日発足



■ 構成メンバーの取り組みの紹介(一部)

● ナンキンハゼの伐採

京都宝の森をつくる会

ナラ枯れ木伐採後、生育範囲を拡大するナンキンハゼ群落を伐採。2～3年伐採を継続し拡大の抑制をめざすとともに、シカによる実生等の食害を防ぐため、防鹿ネット設置等の対策を検討。地域の在来植生による雑木林を再生する為の対策を進める予定。府立大学（長島研究室）と連携し調査も行っています。



● 大径木調査 / 樹木調査

丹羽英之(京都学園大学)・京都宝の森をつくる会

ナラ枯れにより一気に増加した立ち枯れ木や南面のシイの大径木、および宝が池の森に生育する多様な樹種についてGPSを用いた調査を実施。現状を把握するとともに、今後の対策や森林再生の検討の基礎情報として整理を開始。地域住民と一帯となった調査や意識啓発や理解を進め、連携の取り組みへつなげることも目指します。



● ナラ枯れ木の伐採

京都市みどり政策推進室・北部みどり管理事務所

公園予定地の樹木に対するナラ枯れ被害拡大防止及び、通行者や隣接住宅等への枯死木の倒木被害防止を目的に、ナラ枯れ被害木の伐倒駆除作業を実施、適宜搬出・処分も行っています。
※通行者の往来が予測される箇所や、隣接住宅等への影響が大きい箇所にあるものを優先的に伐採しています。



防鹿ネットの設置 / 実生等モニタリング調査

林床植生はシカ食害の影響が大きく、場所によっては全滅に近い状況であることから、防鹿柵を設置しモニタリング調査を継続しながら森林再生をめざしています。

●長島研究室(京都府立大学)
高柳敦(京都大学)

ナラ枯れ後の林床で防鹿ネットを設置。森林再生におけるシカの影響を調査、光環境、土の硬さ、斜面などの立地環境との樹種の多様性回復との関連性についても観察を続けています。



●森本研究室(京都学園大学)
(公財)京都市都市緑化協会

現地の立木や石垣などの立地環境も利用して、労力やコスト等も勘案した設置方法を試行。効果的かつ効率的な林床植生保全再生に向けた防鹿柵の設置方法の考案をめざしています。



「宝が池の森」 保全再生協議会

「宝が池の森」保全再生協議会 事務局

京都府立大学大学院生命環境科学研究科 森林計画学研究室
助教 博士(学術) 長島 啓子
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5
Email:nagakei@kpu.ac.jp TEL/FAX:075-703-5635
http://takaragaike.html.xdomain.jp/



2016.04.23 (第1刷)



宝が池の周辺の森は散策等に利用され、市民の憩いの場になっています。しかし、近年は、マツ枯れに加えて、ナラ枯れも生じたうえに、鹿による食害がおき、下層植生が失われて表土が剥き出しになった所では土壌流失が始まっています。また、シイ、ソヨゴ、ナンキンハゼなどの特定の樹種のみが勢力を拡大しており生物多様性が急速に失われ始めています。

「宝が池の森」保全再生協議会は、宝が池及びその周辺地域の自然環境の保全や再生に関心を持ち、具体的な活動に取り組んでいる、あるいは、取り組もうとしている個人や団体関係者からなる情報共有と相互理解の場です。

皆様のご理解とご協力、そして、積極的なご参加をお願い申し上げます。



会長 田中 和博
(京都府立大学 生命環境科学研究科 教授)

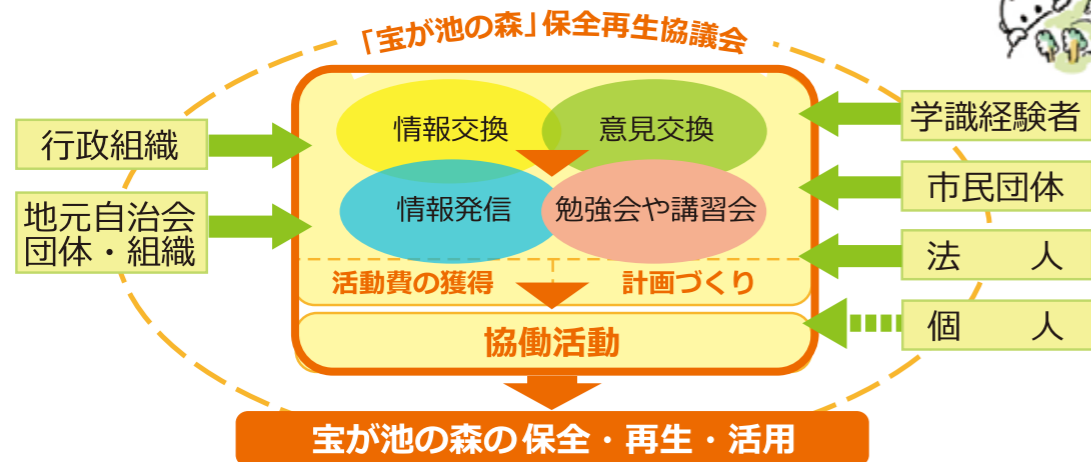
協議会の目的と活動の内容

「宝が池の森」保全再生協議会は、宝が池とその周辺の森の保全・再生に向けて、私たちができることを考え、実行することで、多様な生物がすみ、それを活用できる豊かな森を将来に継承していくことを目的として、2015年10月に発足しました。



- 協議会では、目的の実現に向け、
- 宝が池の森の保全・再生・利活用に関する情報及び意見を交換・共有・調整するための会議の開催
 - 宝が池の森の保全・再生・利活用に係る勉強会、報告会、シンポジウム等の開催
 - その他、宝が池の森の保全・再生・利活用のために必要な協働活動及びその資金獲得に関することに、関係する組織・団体・研究者・個人が連携、協働して取り組みを進めていきます。

主な取り組みと体制



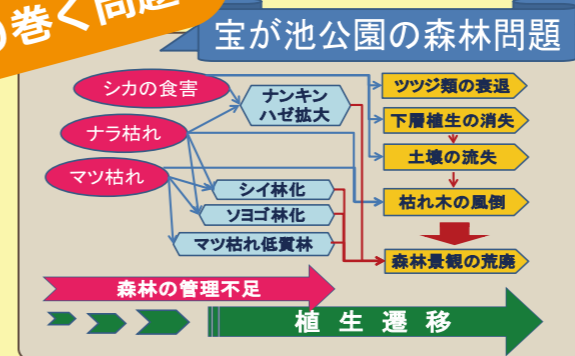
活動区域



宝が池公園区域を含む宝が池集水域並びに松ヶ崎周辺をコアエリアとし、必要に応じて深泥池集水域及び上賀茂本山なども含めて広域に検討してゆきます。



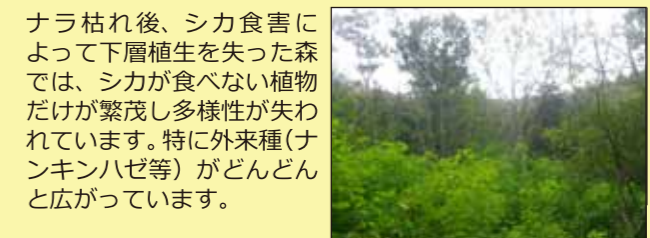
宝が池を取り巻く問題



2010年頃から確認数が増え続けているシカの影響が深刻度を増しています。シカが届く高さの草や木の葉が食べられ、林床植物が消失した森が広がっています。高い位置の葉を食べる為の「枝折り」被害が拡大し、被害木の多くが枯死しています。表土流出が進み、露出した根にも「樹皮剥ぎ」が広がり、倒木も発生、一部で斜面崩壊も起きています。ナラ枯れにシカの食害が加わり、多くの植物が急激に失われて森林環境は劣化し、様々な生きものの生息にも深く影響を与えているようです。深泥池周囲では2015年よりミツガシワ等の希少植物への被害が急激に進んでいます。



カシノナガクイムシ（甲虫）が幹の中で大繁殖することで木が枯れてしまう「ナラ枯れ」。2010年頃から宝が池の森でも、コナラやアベマキを中心に、一部シイにもこの虫による被害が広がり、特に50年以上老齢のコナラの大径木に立ち枯れが多く発生しました。森のいたるところで大径木が立ち枯れ、安全面での問題も生じています。収束しつつありますが、被害が一気に広がったため、伐採等の対処が難しくなっています。



ナラ枯れ後、シカ食害によって下層植生を失った森では、シカが食べない植物だけが繁茂し多様性が失われています。特に外来種(ナンキンハゼ等)がどんどんと広がっています。

※宝が池シンポジウム 2015 資料：「たからが池の森を取りまく、いろんな問題」他より抜粋 / 一部加筆・編集